

公共施設再配置 長穂地域モデル事業
ワークショップのまとめ及び今後の流れについて



平成29年 4月

周南市 施設マネジメント課

目次

はじめに	1 ページ
第1編 長穂地域モデル事業の目的、地域の現状	
第1章 長穂地域モデル事業について	
1-1 長穂地域モデル事業の目的と位置付け	1 ページ
第2章 長穂地域の現状と課題	
2-1 地理的特徴	2 ページ
2-2 社会的特徴	2 ページ
2-3 地域内の公共施設	3 ページ
2-4 地域の夢プラン	4 ページ
第2編 長穂地域モデル事業（ワークショップ）のまとめ	
第3章 ワークショップについて	
3-1 ワークショップの目的	5 ページ
3-2 ワークショップ日程	5 ページ
3-3 ワークショップ参加者	5 ページ
第4章 長穂地域における地域づくりの方向性	
4-1 長穂地域の現状と課題	6 ページ
4-2 地域づくりの方向性	6 ページ
第5章 支所・公民館の整備について出された意見	
5-1 場所について	7 ページ
5-2 複合化の対象となる施設について	8 ページ
5-3 支所・公民館に求められる機能等について	9 ページ
5-4 支所・公民館の全体像について	12 ページ
第3編 今後の支所・公民館の整備の流れについて	
第6章 今後の支所・公民館の整備の流れについて	
6-1 今後の流れについて	13 ページ
6-2 その他設計の際に重視してほしい点について	14 ページ

はじめに

周南市をはじめとする全国の地方公共団体において、行政運営上の深刻な問題・課題となっているのが、公共施設の老朽化です。

昭和40年代の高度経済成長期から昭和50年代にかけて、急激な人口増加に対応するため、各自治体などにおいて整備された学校や市営住宅、公民館などのいわゆるハコモノ施設や、道路、橋りょう、上下水道などのインフラ施設が、現在、一斉に更新時期を迎え、その対応を迫られています。

本市には現在、道路や橋りょう、上下水道などのインフラ施設を含めると1,000を超える公共施設があり、このうち約6割が整備後30年以上を経過し、更新時期を迎えています。

しかし、現在の公共施設の量をそのまま維持し更新しようとした場合、多額の経費が必要となり、今後40年間で約5,886億円と試算されています。

市の今日の財政状況や、今後の予想される税収の伸び、超高齢社会の進展による社会保障費の増高等を考えると、到底捻出することができる数字ではなく、現在の規模で公共施設を維持することは困難な状況にあります。

一方、人口減少社会の到来や、高齢者の増加など社会経済情勢の変化により、公共施設に対するニーズや需要も変わりつつあります。

こうした背景を受けて、本市においては、今後も将来にわたり、市民の皆様に必要なサービスを提供していくことを基本としつつ、本市の身の丈に合った施設保有量を実現するため、公共施設の再配置に向けて、再配置についての基本方針や目標、そして手続き等を網羅した「周南市公共施設再配置計画」を平成27年8月に策定いたしました。

今回、この計画に基づき平成27年度から28年度にかけて実施した「公共施設再配置長穂地域モデル事業ワークショップ」の検討結果と、今後の予定についてのまとめを作成いたしました。

今後は、新たな長穂支所・公民館の建設に向け、しっかりと事業を進めてまいります。

第1編 長穂地域モデル事業の目的、地域の現状

第1章 長穂地域モデル事業について

1-1 長穂地域モデル事業の目的と位置付け

長穂地域モデル事業（以下、「モデル事業」という。）は、長穂地域にある公共施設の老朽化や課題の解消に向けて、長穂地域に最も適した公共施設のあり方や施設保有量の実現（公共施設の再編・再配置）を図ることを目的として実施しました。

長穂地域においては、長穂支所・公民館が建築後45年経過していること、耐震性能が現行の耐震基準を満たしていないこと、山口県が指定する土砂災害特別警戒区域に立地していることから、優先的に課題の解決に取り組むべき施設に選定されました。

その結果、長穂地域を公共施設の再配置に先行的に取り組む「モデル地域」として取り組むこととしました。

第2章 長穂地域の現状と課題

2-1 地理的特徴

長穂地域は、周南市の北部に位置しており、須々万地域、向道地域、菊川地域に接しています。

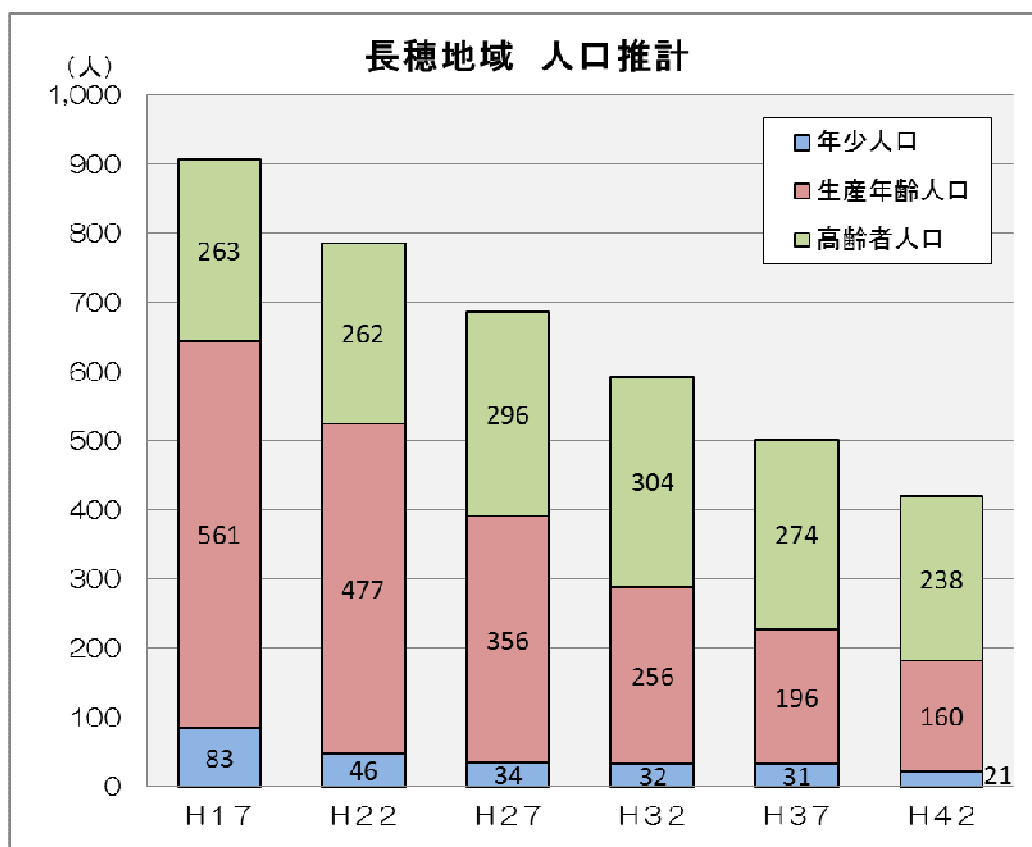
地域面積は、約15.6km²で、地域の中心部を国道315号が南北に縦断しており、徳山中心部からは自家用車で概ね30分の距離にあります。

地勢は小高い山に囲まれた盆地で、国道に沿って田畑が広がり、山あいの市道に沿って集落が点在しています。

2-2 社会的特徴

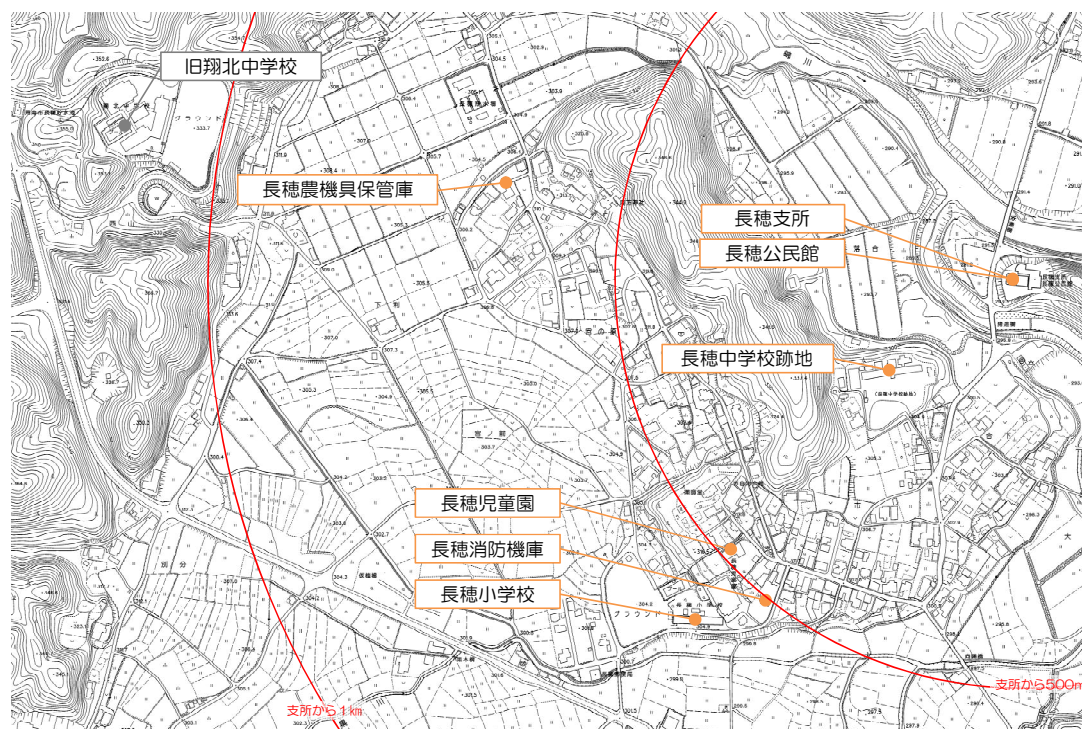
長穂地域の人口は、平成22年国勢調査では785人、高齢化率は、市内平均の26.2%を7.2%上回る33.4%であり、年少人口比率は市内平均の13.2%を7.3%下回る5.9%となっています。

人口の動きを平成17年国勢調査と平成22年国勢調査と比較すると、人口は122人の減少となっています。内訳としては、年少人口は37人減、生産年齢人口は84人減、高齢者人口は1人の減少となっています。



※周南市公共施設白書 394 ページより

2-3 地域内の公共施設



地域内の公共施設は、支所・公民館をはじめ、児童園、消防団機庫を整備しており、長穂小学校は平成22年度から休校に、翔北中学校については平成27年度から、廃校となっています。

長穂支所・公民館の建物は、昭和46年（1971年）に国民宿舎として建設された建物で、国民宿舎の廃止後にこれを改修して、昭和62年（1987年）に支所・公民館として開設したものです。施設は老朽化が進んでいるうえ、耐震性能が確保されておらず、また、土砂災害特別警戒区域に立地しているため、これらの解消が喫緊の課題となっています。

長穂地域においては、住民が集うことのできる公共施設が公民館のみであり、地域の諸活動を支援していくには、こうした機能を持つ施設は今後も不可欠です。

なお、平成22年4月から休校中の長穂小学校については、校舎は老朽化が著しく耐震性能が低いものの、体育館は現行の耐震基準を満たしており、住民が集うに適した立地であるため、今後、有効活用が期待されます。

施設名	建築年次	経過年数	延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	稼働率 (H27)	支所・公民館からの直線距離 (m)
長穂支所・公民館	1971 (S46)	45	支所 368 公民館 1,063	5,038	公民館 4.5%	—
長穂児童園	2002 (H14)	14	228	1,508	—	500
長穂消防機庫	1993 (H5)	23	69	207	—	500
長穂小学校 (休校)	1963 (S38)	53	1,758	13,243	—	600
長穂農機具保管庫	1977 (S52)	39	63	191	—	600
【参考】旧翔北中学校	2001 (H13)	15	3,317	22,116	—	1,100

現在、支所に配置されている職員は2人であり、諸証明等の発行件数は、平成27年度実績で537件となっています。

また、公民館に配置されている職員は1人であり、平成27年度の公民館を利用した人数は、3,579人となっています。

長穂支所	証明書発行件数 (件)					職員数 (人)
	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	572	501	555	612	537	2
長穂公民館	延べ利用者数 (人)					職員数 (人)
	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	4,100	2,213	2,371	3,068	3,579	1

長穂公民館 稼働率 (H27)				
部屋	午前	午後	夜間	全体
小会議室	14.5%	12.0%	3.3%	9.9%
講座室 (大)	2.7%	1.1%	0.3%	1.4%
講座室 (小)	0.0%	0.0%	10.1%	3.4%
大会議室	6.3%	2.7%	5.8%	4.9%
調理実習室	4.1%	2.5%	7.9%	4.8%

2-4 地域の夢プラン

長穂地域においては、平成24年度に地域の夢プランを策定し、平成25年度に発足した長穂夢プラン実行委員会が、物心共に豊かに暮らせる地域を目指して、コミュニティと共に活発な取り組みを行っています。

夢プランの策定の際には、地域の皆さんが話し合いを行い、「長穂地域が目指す地域の方向性」を定めていますが、モデル事業の推進にあたり、地域の夢プランの策定から3年が経過しようとしていたため、長穂夢プラン実行委員会会長が活動内容の報告を行い、ワークショップ参加者で情報の共有を図りました。

第2編 長穂地域モデル事業（ワークショップ）のまとめ

第3章 ワークショップについて

3-1 ワークショップの目的

モデル事業では、ワークショップを用いて公共施設再配置に関する検討を行うこととしました。

ワークショップとは「市民の皆さんと市の機関、又は市民の皆さん同士が問題点を共有・認識しながら、相互に議論、共同作業などを通して、案を作り上げていく方法」のことです。この手法を用いて、長穂地域の皆さんと行政と一緒に、長穂地域の公共施設再配置について考え、話し合うことで、長穂地域が目指す将来の方向性の実現に寄与するとともに、地域の皆さんが愛着を持つことが出来る施設の実現を目指します。

3-2 ワークショップ日程

ワークショップは平成27年12月13日（日）に第1回目を開催し、平成28年9月までに計8回開催しました。各ワークショップの開催日時とテーマは以下の表のとおりです。

開催日	時間	テーマ	会場
H27. 12. 13（日）	9時30分～11時30分	私たちの長穂、〇〇だったらいいね	長穂公民館
H28. 2. 14（日）	9時30分～11時30分	私たちの長穂、もう一度見つめてみよう①	長穂公民館
H28. 3. 13（日）	10時00分～12時00分	私たちの長穂、もう一度見つめてみよう②	長穂公民館
H28. 4. 17（日）	9時30分～11時30分	私たちの新しい拠点施設、〇〇だったらいいね	長穂公民館
H28. 5. 15（日）	9時30分～11時30分	必要な機能を実現できるハードを考えよう	長穂公民館
H28. 7. 31（日）	9時30分～11時30分	拠点施設の全体像を考えよう	長穂小学校体育館
H28. 8. 28（日）	10時30分～12時30分	拠点施設の使い方について考えよう	長穂公民館

3-3 ワークショップ参加者

ワークショップには、地域の皆さんから46名の参加申し込みをいただき、各回約30名の参加がありました。

そこに、市職員約20名と徳山工業高等専門学校専攻科環境建設工学専攻の学生、教授の6名を加え、各回を約50名で実施することが出来ました。

第4章 長穂地域における地域づくりの方向性

4-1 長穂地域の現状と課題

長穂地域の地域づくりの方向性の検討は、長穂地域の現況と課題について整理したうえで取り組む必要があります。

そのため、ワークショップでは、8つのグループに分かれて長穂地域の現況と課題について検討を行いました。

長穂地域の現況については、「良いところ・好きなおところ・自慢できるおところ」と「気になるおところ・不足しているおところ（問題点）」について意見出しを行いました。

長穂地域の課題については、「良いところを維持するための課題とその対策」と「問題点を克服するための課題とその対策」をテーマに検討を行いました。

※各グループから出た主な意見については、別紙（1）参照

4-2 地域づくりの方向性

長穂地域が目指す地域づくりの方向性については、「長穂地域の現況と課題」で出てきた意見を参考に、各カテゴリー別に長穂地域のキーワード、キャッチコピーの検討を行いました。

ここでは7グループに分かれて検討した結果は、以下のとおりです。

分類	主なキーワード
豊かな自然	ホテル、カジカガエル、自然・四季の美しさ
農業・特産品	米がおいしい
伝統（芸能）・文化財	龍文寺、念仏踊
名所 観光・地域資源	温泉、龍文寺
コミュニティ	青年部の活動 人が良い、仲が良い、人のまとまりがある
行事・イベント	ほたる祭り、どろんこ祭り
交通	交通アクセスが良い

班	キャッチコピー
1班	来て、観て、体験して楽しい交流拠点長穂 ～住んでみて幸せな長穂地区～
2班	住みよい長穂
3班	踊って、食べよう！飲んで、暮らそう！楽しい長穂！
4班	山口のへそ 長穂に住みませ 住んだら都 ～交通の便がよい、水がきれい、ホテル祭り、農林畜産～
5班	そこそこ住みやすく、そこそこ便利！
6班	自然と人と伝統の調和、隣近所との繋がり、各団体の協力性
7班	1人1人 みんなが主役 自然と人のつながりのまち 長穂

このキャッチコピーは、長穂地域の公共施設の再配置について検討する際に活用するとともに、今後、地域のコミュニティが活動をしていくうえでも、長穂地域が目指す地域づくりの一つの方向性として、重要となってくると考えられます。

第5章 支所・公民館の整備について出された意見

5-1 場所について

公共施設再配置計画では、「4.3.6 施設の整備方針（1）施設の整備方針」において、「市が現有する建物や土地の有効活用を優先的に検討することとします」と定めています。そのため、モデル事業においても、支所・公民館の再配置を検討するにあたり、市が長穂地域に所有する大規模な土地の中から、建設候補地を考えることとしました。

現在、長穂地域に市が所有する大規模な土地としては、以下に示す3箇所があります。



整備候補地については、ワークショップの参加者を対象に、この3箇所の中から1箇所を選ぶアンケートを実施しました。アンケートの結果は次のとおりです。

施設候補地	票数
長穂支所・公民館がある場所	0票
長穂中学校の跡地	0票
長穂小学校がある場所	33票
無記入	1票
合計	34票

アンケートの結果、長穂小学校がある場所が意見の大半を占める結果となったため、長穂小学校のある場所に施設を整備する事を前提として、引き続き検討を進めることとしました。

5-2 複合化の対象となる施設について

長穂地域の公共施設再配置は、長穂支所・公民館における老朽化等の課題解消をきっかけとして取り組むこととなりましたが、新たな施設の検討を行う際には、長穂地域にある他の公共施設との複合化についても検討を行い、最も費用対効果が大きいと見込まれる手法で施設整備を実施する必要があります。

長穂地域の公共施設は、支所・公民館の他に、小学校、消防団機庫、児童園、農業用倉庫がありますが、各施設の立地条件や建物の状態、利用状況等を踏まえて、このワークショップでの各施設の取扱いは以下のとおりとしました。

施設名	このワークショップでの各施設の取扱い
長穂支所	長穂小学校の敷地に、公民館とともに新たに建設。
長穂公民館	長穂小学校の敷地に、支所とともに新たに建設。
長穂小学校	支所・公民館の建設に伴い、廃校し解体を行う。
長穂児童園	建築後 14 年と比較的新しく、解体してまで新たな支所・公民館との複合化を検討する状況ではないため、検討の対象外とする。
長穂消防機庫	長穂小学校敷地と隣接して建設されており、支所・公民館が小学校敷地に移設された後は、一体の地域の拠点エリアとなるとともに、建築後 23 年経過と建物も比較的新しい状態のため、長寿命化に向けた取組みを行う。
長穂農業用倉庫	現在はコミュニティのテント等が保管されており、「地域が所有する農業機器等の保管」という、当初の設置目的は果たされていると考えられる。また、建物にも大きな劣化等が見受けられないため、適切な維持管理を行いつつ、老朽化が進んだ際に改めて方向性を検討する。

その結果、新たな長穂支所・公民館の整備に際し、複合化の対象となる公共施設はなく、この度は支所・公民館の移設として検討を進めることとしました。

5-3 支所・公民館に求められる機能等について

支所・公民館は、地域づくりにおいても活動の拠点としても使用されることがある重要な施設です。

そのため、ワークショップでは、公共施設再配置の検討のなかで、地域づくりの将来像を展望し、公共施設にあったら良いと考えられる機能について、様々な視点から検討を行いました。

検討の結果、主な意見として「オープンスペース・交流スペース」、「会議室・和室」、「調理室」、「図書室・文化財等展示」、「その他（加工所、販売所、診療所、温泉など）」の5つの機能が挙げられました。

次にこの5つの機能を実現するために、必要と考えられるハード面（規模・間取り・使い方 など）について、ワークショップで話し合いを行いました。

話し合いの中で出てきた意見を以下に示します。

図書室・文化財等展示

【図書コーナーの全体イメージ】

- ・ゆっくりくつろげる感じの空間
- ・本をそこで読める雰囲気
- ・玄関ホールと一体化したような空間
- ・会議スペース、子供たちが集まるスペース、図書コーナーを兼用したスペース
- ・採光が十分にとれた明るいスペース

【展示スペースのイメージ】

- ・念仏踊り（烏帽子等）を展示するショーケース
- ・ホテルに関する展示（展示パネルでよい）

【図書コーナー等の位置取り】

- ・玄関のすぐ横に開放的なオープンスペースとしたい
- ・交流スペースの一角にあると良い。交流スペースは、120人くらい利用できるものとする

【書架等の配置に関する事】

- ・壁面を利用した作り付けの本棚
- ・低い高さの机、イス（小さい子供用に、膝に抱いて読み聞かせができるくらいの高さ）
- ・小さな机を数個ほど配置し、その机をくっつければ大きな机になるもの

【あると良い機能等】

- ・タブレット端末が、快適に使用できるため、FreeWi-Fi設備を設置する
- ・通常時、出ている机等をイベントの時に収納できる倉庫が側にあるとよい
- ・段差なしで、一部カーペットの床

【利用時のイメージ ～こんな感じで使いたい～】

- ・小さな子供をひざにおいて、本の読み聞かせができる
- ・子ども達が、学校帰りに気軽に寄って過ごせる
- ・地域のカフェスペース
- ・地区外の人でも気軽に立ち寄れるようなスペースに

会議室・和室

【会議室（大）】

- ・大会議室80名程度の人数の入る部屋
- ・パーティションで3区分に区切ることができるように

【会議室（小）】

- ・かなりこじんまりした部屋
- ・オープンスペースの近くにあると便利かも
- ・水場があるとサークルでも活用できる

【和室】

- ・20～30畳程度の大きい和室をふすまで仕切る形
- ・避難所としての使用も想定（災害時の自主避難等が中心）
- ・高齢者が利用するため、イスがあった方が使いやすい

オープンスペース・交流スペース

- ・建物の中央に配置し、他の部屋への行き来がしやすい造り
- ・車いす利用者や障害者に配慮した出入口
- ・利用人数的には20名程度
- ・広さを可動式の間仕切り等で変更できるようにする
- ・図書コーナーを取り込み、近くに小さい子供が遊べるスペース（マットを敷く等）を配置
- ・子供から高齢者、障害者まで気軽に利用できるスペースに

調理室

【調理室のありよう、こうあってほしい】

- ・団体ごとに整理して、調理室内に一括収納できるように
- ・エアコンがあるとよい

【調理室で行われるとよいこと】

- ・調理室で蒸す等の準備をし、すぐ外で餅つきができることよい

【調理室に必要な部屋や空間、間取り】


- ・内外の出入りをしやすいようにバリアフリーに
- ・数人で大鍋を運ぶことが可能なように開口部は広く
- ・会議室に調理したものをすぐ出せるように隣接しているとよい

【調理室の設計や運営などで大切にしたいこと】

- ・調理台は、蛇口もコンロも蓋をして、フラットで使えるようにしたい
- ・シンクは、大きな鍋が入れられるように、深く幅広で
- ・イベント時に複数の団体が別々に調理できるようにシンクを調理台と別に広く作る
- ・イベントの前日準備等で大量に下ごしらえをするので、業務用の大きな冷蔵庫があるとよい
- ・電化製品を複数使用できるように、十分なコンセントがあるとよい
- ・ダクトが各調理台の上にあるとよい

【その他（加工所、販売所、診療所、温泉など）】

◆今後地域として検討する可能性があるとした施設

施設名	意見	
加工所 販売スペース(道の駅風) 販売所 飲食店	・このグループワークで決められる問題ではない	 地域での取り組みが出来るかどうか、現時点では分からない
	・何を、誰がつくるのかを地域で話し合う方が良い	
	・別に委員会を立ち上げて、検討する方が良いのではないか ・その上で、計画時点でスペースが必要かどうかを判断してはどうか	
駐在所	・県に地域として要望中のため	

◆今後検討する必要がないとした施設

施設名	意見
銀行、農協、キャッシュコーナー	今まで収益が上がらないために撤退した施設のため
コープ、コンビニ	地域に商店があるため
宅配便の集配窓口	荷物の安全性の確保が出来ないため
温泉、足湯	お金がかかるため
介護施設	新施設に談話室などの機能があれば、併設で必要がないため
診療所	週1回の受診より、専門病院へ行った方がいいため

第3編 今後の支所・公民館の整備の流れについて

第6章 今後の支所・公民館の整備の流れについて

第6章では、今後の新たな支所・公民館を建設するまでの基本的な流れを紹介します。




6-1 今後の流れについて

新たな長穂支所・公民館の建設に向けて、まずは敷地の測量を行い、建設用地の境界の確定を行う必要があります。

その後、測量の結果を基に作成した敷地の図面を用いて、新たな支所・公民館が最も使いやすいものとするための配置や形、外観などについての基本設計を実施します。

基本設計の後には、実施設計を行い、実際に施工が出来る図面を作成するとともに、これらの作業と並行して、長穂小学校の廃校の手続きと、解体に向けた準備も実施していきます。

新たな長穂支所・公民館の建設工事の準備が整いましたら、工事に取り掛かります。

整備計画		
H29 年度	建設予定地（小学校用地）の測量	隣接する土地や道路との境界を確定させるための用地測量を行います。
	支所・公民館の基本設計	敷地、立地条件や関係法令等に照らし合わせ、平面、立面などの基本設計図を作成します。
		
H30 年度 (予定)	支所・公民館の実施設計	施工できる図面を作成します。
		
H31 年度 (予定)	建設工事	作成した図面を基に、建物、駐車場の建設を行います。
		
H32 年度 (予定)	完成（供用開始）	施設の利用を開始します。

6-2 その他設計の際に重視してほしい点について

第7回のワークショップにおいて、長穂地域の皆さんと共に検討し、徳山高専の学生が図面化した案を基に、市が支所・公民館の設計をする際に、重視してほしい点等について検討を行いました。その検討結果を以下のとおり紹介します。

意見（課題など）	解決策	内容・意図
建物がグラウンド部分にはみ出している	建物の形を90度にする	建物の形を90度にする事で、建物の横幅を抑え敷地に収まるようにする
小会議室を1つ減らす	和室に変更	和室があると良い
	減らした分、大会議室、小会議室の面積を大きくする	小会議室が2つあるよりは、1つ1つの会議室をもう少し大きくしたい
トイレの位置が端の方にあり不便	小会議室を減らした分、総㎡の削減	㎡を削減した分、建物をコンパクトに
	トイレを中央付近に持ってくる	建物内を南北に貫くフリースペース
敷地内を車で南北に通れるようにする	トイレと倉庫をフリースペースの後方に設置	フリースペースは建物の南側にだけ配置
	体育館と新しい施設の間を車が通れるように	体育館側と屋上を渡り廊下で繋ぎ、その下を車が通れるように 2トントラックが通れると良い
フリースペースの活用	前面を大きくして広さを確保	
	支所スペース前までフリースペースを広げる	来館者とのコミュニケーションを活発にできる
	ちょっと座れる椅子を設置	
大屋根が必要	図書・自習スペースを確保	子どもが自由に出入り出来る環境づくり
	玄関前に車の乗り降り出来る屋根を設置	雨天の際に、濡れずに車の乗り降り出来るように
	風除室をなくして、車の乗り入れ出来る軒をつくる	
室内の工夫	雨天などでもイベント出来る屋根を設置	雨天でも餅つきなどが出来るスペース
	部屋の間仕切りは可動式で自由に動かせるように	開放感・利便性の確保
	調理室は現在の規模と同等に	
イベント時に活用出来る設備があると良い	支所・団体室は同室にして仕切りで区切る	市とコミュニティの連携を確保
	・外部電源の確保 ・水道の確保 ・外用のトイレの確保	
施設の雰囲気改善	今まであまり公民館を利用していなかった人も来やすい雰囲気の建物	

今後、市が支所・公民館の設計・建設に取り組む際には、ワークショップで考えた案やこれらの意見も参考としながら、法律や維持管理のしやすさ、コスト面などを考慮しながら進めていくこととなります。

<別紙(1)>

■長穂地区の気になるところ、不足しているところ(問題点)①

カテゴリ	気になる・不足しているところ(問題点)	問題点を克服していくための課題	その対策
空き家	・空家があっても貸す人が少ない	・空家を貸せる状態にするための改装費用が多額	・空家の改装に対する補助の拡充
	・空き家がある、高齢者一人暮らしが心配	・空き家の活用が必要	・空き家も借家にし、周りの地区からの家族にでも入ってもらう。長穂に住むためのノウハウ集を作る ・住みやすい、入居しやすい宅地整備 ・長穂の良さを周りの地区にたくさんアピールして住みたい場所にさせる ・病院の出張所を作る
	・空き家が増える	・子どもがいない、子どもを増やす	・若い世代に移住してもらう
公共施設	・いろいろな施設が古くなっていく		・公共施設配配置、まさに本モデル事業
	・支所・公民館が中心にないので不便		・早めに支所・公民館を中心部に!
	・公民館の活動が停滞している	・公民館の立地や施設が不便	・公民館の建替え ・公民館の情報発信(館報などで)
交通	・車がないと生活が不便		・乗り合い交通も考える(スクールバスの活用) ・無料バス
	・交通が不便、バスが少ない	・バスを活用するため、国道315号を通るバスを	・バス停を団地内も、315号を充実させる
	・人が出ていく。人口が減少していく	・バスの本数が少ない	・通学時間などバスの時間帯、料金の見直し
		・車がないと不便	・バスなどの交通の便をよくする
	・公共交通の不足	・移動が不便	・お助けサービスを活用する ・福祉タクシーの導入
	・車がないといけない ⇒高齢者にとって大きな問題		
	・夜暗い、道が狭い、交通事故が心配	・夜道を明るくする	・防犯灯をつける
	・生活交通の不安 (自動車の運転できない人もいる)		
・通学者や高齢者等の公共交通			
産業	・地域でお金を稼ぐだけの経済力がない	・空き家を生かしていく工夫が必要	・空き家を売り物になるように、住めるように、地域住民自身が整備していく
	・働く場所が少ない、買い物できる場所がない		・高齢者が働ける場所作り ・長穂にお金が落ちるしくみ(野菜即売等)を考える
	・目玉の特産品が少ない、薄い(独自性が)	・ここにしかない!という目玉が少ない ・相談して開発・加工する場も個人宅しかないので、なかなか開発も加工もできない	・自由に人が集まって、アイデアを出し、試作し、工夫する加工所のような場づくり
	・人が出ていく。人口が減少していく	・お店や病院が少ない	・温泉をもう一度活用する ・加工所などで、地域の特産品などを作っていく。 ・食事処の整備 →地域に産業をおこし、イベント以外でも、地域外の人を呼び込む
	・みんなが相談しながら、開発・加工する施設がない(みんなが特産品を作る場)	・ここにしかない!という目玉が少ない ・相談して開発・加工する場も個人宅しかないので、なかなか開発も加工もできない	・自由に人が集まって、アイデアを出し、試作し、工夫する加工所のような場づくり
	・田畑が荒れている	・荒れた田畑を管理する	・管理してくれる人を、他地域からも呼び込む
	・農道の補修が多い		・圃場整備
	・農地の管理	・清掃	
	・特産品の販売ルートが確立されていない	・長穂地区のホームページを長穂地区住民すら一部の人がしか見ていない、情報発信が足りない	・お米のブランド化
	・買い物できる店が少ない		
自然	・人が出ていく。人口が減少していく	・雪が多く不便	
獣害	・獣害。イノシシ、シカ…	・周囲が材木(杉)の林で、動物の食糧がない	・里山を整備しないといけない
	・イノシシ、猿などの獣害		・防護柵で獣対策をする

<別紙(1)>

■長穂地区の気になるところ、不足しているところ(問題点)②

カテゴリ	気になる・不足しているところ(問題点)	問題点を克服していくための課題	その対策
人口減・ 少子化		・若い人が、世代を超えて近くに住めれば…	・集合住宅 ・移住フェアなどへの参加(移住受入のアピール)
	・人口減少、少子化	・長穂で子育てしたいと思える地域に ・0～2歳児は街の保育園に行っており、子育て世代としては住むのが大変	・子どものための住民による協力体制
	・子ども、若い人が少ない	・若い人が住みやすい環境を考える	・若い人が転入(結婚、企業誘致、企業家) ・少子化ストップ、子供1人出産につき手当を充実 ・金銭面の不安をなくす
	・子供や若い人が地域外に出ていく	・子供達が帰ってくる	
	・人が出ていく。人口が減少していく	・空家や、空き地が多い	・他地域からの移住、定住者を呼び込む
	・児童園が今後どうなるか分からない	・子どもがいない、子どもを増やす	・若い世代に移住してもらう
	・街から子供の声が聞こえない		
	・学校がない	・移動が不便	
	・結婚・就職で地区外に出る人が多い	・須金のような仕事場があれば、働く人が増える	・圃場整備を行い、機械化を図る。手がすいた人が他に知恵を出して、新しい仕事を作り出す
	・人(特に子ども)が少ない		
	・若者がいない(子どもが少ない)	・地域活動に参加しやすい雰囲気が必要	
	・高齢者が多く、力仕事ができない	・高齢者を元気に、仕事をあたえる ・古いものを補修する	・高齢者が働ける場所作り ・高齢者が長生きできるように病院に行きやすくする
	・自分の子に長穂に帰ってこいと言えない		
	・小学校、中学校がない、学校が遠い		
・学校休校後は、子どもと地域の人が触れ合う場がない			
・学校がない、子供の声が聞こえない			
集いの機能	・気軽に話し合いができる場所がない		・老人ホームと保育園が一緒になったような施設
	・定年退職後の気軽に集まることのできる場がない(自宅の延長線上にあるような場所)	・子どもからお年寄りまで、いつでも誰でも交流できる場(気軽に交流できる場があれば自分たちでできることを見つけることができるのでは)	・今回の支所公民館の建替えの計画の中で、そういう場所を入れることが出来たらいい
担い手不足	・夢プランメンバーが誰か分からない	・長穂地区のホームページを長穂地区住民すら一部の人しか見ていない、情報発信が足りない	・夢プランニュースを頻繁に発行し名簿を掲載する ・スクールバスを整備し外に向けてアピール ・長穂の情報発信を地区外向けにもっと力を入れる
	・夢プランへの参加が限られている		
	・イベント参加者がいつも同じ人		・他地区からも来てもらえるしくみを考える
	・中心となる人材が不足している	・女性がイキイキと力強く活躍できる環境や雰囲気が必要	・既存の団体の支援と充実 ・リーダーや人づくりの機会を充実 ・活躍できる場づくりや集まれる場づくり
	・人口と人材が少ない		
	・それぞれの活動団体の担い手が不足	・地域活動に参加しやすい雰囲気が必要	
・道路の草刈に手が回らない			
人の意識	・イベントなどに新しく入りづらい	・長穂地区のホームページを長穂地区住民すら一部の人しか見ていない、情報発信が足りない	・夢プランニュースを頻繁に発行し名簿を掲載する ・スクールバスを整備し外に向けてアピール ・長穂の情報発信を地区外向けにもっと力を入れる
	・世代によって、意識に違いがある		
医療	・眼科、耳鼻科などの身近な病院がない(通院が大変)		・回診制度の導入
	・医療の不足	・移動が不便	・お助けサービスを活用する ・福祉タクシーの導入

<別紙(1)>

■長穂地区の良いところ、好きなところ、自慢できるところ①

カテゴリ	良いところ、好きなところ、自慢できるところ	良いところを維持していくための課題	その対策
イベント 行事	・イベントが多い、ホタル祭りが自慢、楽しみ		・イベントを「量」から「質」に ・地域以外の人ともコラボレーションする
	・イベントに協力的 ・少人数でまとまって活躍しやすい	・義務にしない工夫をする ・楽しんで準備できるイベントに	・他地区からも来てもらえるしゅみを考える
	・外の人が遊びに来やすい行事が多い	・将来的に若者人口を増やす	・外の人に参加しやすい行事の充実 ・人が少なくなる中、行事を見直してスリム化 ・楽しく、みんなが参加しやすいものへと工夫
	・ほたる祭り, 軽トラ市などのイベントがある	・イベントを継続していくこと、人材の確保	
	・市の代表になるイベントがある	・地域づくりに参画しやすい空気を作る	・何度も声掛けをする ・周囲の人を巻き込み、人の繋がりを増やす
	・行事が多く、お年寄りなどの参加も盛ん		
	・イベントで、地域外の人が集まってくる		
空き家	・空き家に人が入りやすい	・清掃	・お助けサービスを活用する ・若い世代に移住してもらう
交通	・中山間にしては、アクセスがよい	・「長穂ってどこ？」って、市民に知られていない	・長穂をよく知ってもらうため、HPやブログ、フェイスブック等のSNSによる情報発信の充実
	・道路が維持できている、隅々まで舗装されている		・道路補修をボランティアとする
	・車があれば、交通の便が良い	・道が良く、通り越してしまう(315号線)	
	・国道が通っていて、通勤に便利、住みやすい		
公共施設	・公民館の図書館には中央図書館にない本がある		
産業	・特産品(ルバーブジャム、菊芋)	・継続が難しい、なかなか儲からない	・スポンサー制度がないか ・ゴルフ場やまちなかでの販売
	・北部地区では平坦地が多く、産業の発展可能性が見込める		・圃場整備事業を活かす
	・米がおいしい、野菜作りも楽しい	・農業人口を増やす	・田舎イコール不便という考え方を考える
自然	・景色が良く、気分が良い ・田、ダム湖の紅葉、錦川	・特徴のない産業や景色	・花を植えるなど、見どころを創っていく
	・アカガシ・オクチョウジ桜など貴重な自然がある	・貴重な自然を地域振興に生かしていくこと	
	・環境が良く、美しい自然、静か、災害が少ない	・自然を残す	・コンクリートから人(自然物)へ ・農業人口を増やす ・環境維持活動を地域全員で行っていく
	・水音やせせらぎの音があり、自然豊かで安らげる環境	・自然を生かした場づくりと維持(景観を生かす) ・そのための人手と時間と資金をどうするか	
	・龍文寺の景観		
	・危険箇所はあるが、災害は少ない		
	・長穂地区ののどかな風景		
	・自然が豊か ・水・空気がきれい		
人のつながり	・空き家はあるが、新たな入居者も多い	・高齢者が入居することが多い	・田舎暮らし体験の実施。体験住宅の整備
	・環境が良い	・清掃	・お助けサービスを活用する ・若い世代に移住してもらう
			・情報発信やイベントへの参加等、外の人に関心をもってもらうことにより、移住や交流など、地域がさらに充実
	・通学時における地域の見守り隊	・子どもの面倒をみてあげたいが、安全面が心配 ・菊川のようにもう少し、しっかりした組織にして継続を図りたい ・他地区とも協力していかないと長穂だけでは無理	・行政は立ち上がりまではやってくれるが、継続が難しいので、やることを絞っていく
	・思いやりがあって、心がある、温かい人が多い	・一ヶ所に集まれるところがあるとよい	・世代間の交流を今以上に活発にする
	・住人同士のコミュニケーションができてい(顔の見える関係がある)	・反面、遠慮し合って、本音と言えないこともある	
	・住みやすい ・夢プランがある ・人がいい	・地域づくりに参画しやすい空気を作る	・何度も声掛けをする ・周囲の人を巻き込み、人の繋がりを増やす
	・人の繋がり、まとまりが良い	・農業的なまとまりがない。農作物の統一規格でのブランド化ができていない	・H28年度に法人化を進めている
	・世代を超えたつながり、協力がある(草刈りとか)		
	・干渉はしないが、気にかけているという雰囲気		
	・あいさつがよくできている地域		
	・地理的にも人的にも、一体感があり、まとまっている		
	・人柄が素朴 ・支所が新しくなる ・長穂地区から外に移り住んでも、帰ってきやすい		

<別紙(1)>

■長穂地区の良いところ、好きなところ、自慢できるところ②

カテゴリ	良いところ、好きなところ、自慢できるところ	良いところを維持していくための課題	その対策
人的資源	・若い人が活躍し、世代間が協調・団結している	・若い人を増やす	・世代間の交流を深める ・長穂から出ていった人達が戻ってきてくれるようにする
	・子どもがのびのびと育っている	・人口を増やす	・子どもと地域の方の交流を図る ・公園や観光地を作り、子どもが住みたい場所に
	・青年部が良く活動している（ホタル祭り、泥んこバレーなどのイベントが盛ん）	・今は良いが、今後続いていくかどうか心配 ・いつも表に出ている人だけでなく、裏方を活かす	・トップの人の判断力、決断力が必要（嫌われることも覚悟の上）
	・長穂青年部の活動（若者団体との交流） ・地域の方の協力なしには成り立たない	・現在メンバーは20人程度。担い手不足を懸念	
	・青年団（部）活動が活発で、コミュニティに参加している		
	・地域住民の団結力		
	・長栄会の活動（スポンサーからの寄附を集めるなど）		
	・若い人が活躍しているところ		
	・泥んこ祭りなど、若い人が活躍している		
地域資源	・多くの住民が氏神様（周方神社）を守っている ・亀山	・亀山の管理が大変	
	・亀山がある⇒観光に使える	・清掃	・お助けサービスを活用する ・若い世代に移住してもらう
	・温泉がある	・井戸を掘りたいのに、温泉が出てしまう（金属の問題で飲み水に適さない）	
	・龍文寺や念仏踊りは地域の宝	・どうやって継承するか問題 （以前は中学校が行っていた）	
	・県の無形文化財念仏踊り	・今は良いが、今後続いていくかどうか心配 ・いつも表に出ている人だけでなく、裏方を活かす	・トップの人の判断力、決断力が必要（嫌われることも覚悟の上）
	・周方神社・龍文寺の社寺の伝統がある	・伝統を活かしていく地域振興に生かしていくこと	
	・ダムがあり、水に困らない		
	・日本最古の多目的ダムがある		
立地	・地域がコンパクトに集まっている（中心がある）		
	・山奥過ぎない		